

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児学童保育所あみ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 22日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名 (22名うち兄弟児3組)	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 22日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもひとりひとりが主人公ということを中心にしながら、子ども自身が考え、意見を表明できるよう支援している。	・おとな(職員)主導とならないよう、子どもの気持ちに寄り添ってかかわる。 ・子どもたちへ「こうしなさい」ではなく、「どうしたい?」「どう考えたらいいのだろう?」と投げかけ、子どもたち自身が考えていくことができるようかかわる。	・意見を出しやすい場面を多く設定する。 ・トラブルなどの際も、「どうしてそのような行動をしたのか」を一緒に考えたり振り返る時間を作る。 ・行動の背景を探るためにスーパーバイザーを招いて発達や障害特性などを専門的に学ぶ
2	子どもおとなも一緒に考え、悩み、ぶつかり合いながらも、失敗しても大丈夫という経験を通して育ち合うことができる。	・意見のぶつかり合いや、思いが通らないことで摩擦が生じることもあるが、お互いの考えや気持ちを聞くことで、相手の気持ちを理解したり、自分のまずさに気づくことができる。 ・そのことを通してよりよい自分、まんざらでもない自分を感じることができるようにおとな(職員)が丁寧に橋渡しをしていく。	・学校での様子や事業所での様子を共有することで、子どもの姿をより多面的に捉える。 ・うまくいかない場面ばかりでなく、よかった場面を子どもや家族にもしっかりと伝えていくことで、心地よい人間関係の構築につなげる。 ・日々の振り返りからさらに細やかに様子を把握していく。
3	隣接する公園で、活発な子どもたちが思いきり体を動かす活動ができる。	モヤモヤやイライラした気持ちを体を動かすことで解消することができるよう、バスケットやサッカー、バッティング、鬼ごっこなど多彩な活動を提案し、子ども自身がやりたいことを選択する。うまくなりたい気持ちの高まりや子ども同士でコツを教え合うなど変化を見逃さず、おとな(職員)が丁寧にフォローしていく。	・ほかの子どもの姿からチャレンジしてみようという気持ちが芽生えることもある。おとなと1対1ではなく、集団での活動に移行していく。 ・上手にできないことがストレスとなることもあるが、「できるか」「できないか」の二分的な価値観ではなく、「できなくても楽しかった」という気持ちを育む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や交流の場の設定やきょうだい児同士の交流の場	以前は取り組んでいた保護者会の活動が停止したままとなっている。家族状況もさまざまあり、保護者が負担を感じやすいのではないかと。負担とならないような場の設定が必要と考える。	語り合いや情報交換の場が必要かも含めてアンケート等の実施も視野に入れ、実態把握ができればと考える。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 障害児学童保育所あみ

公表日 年月日2025年2月28日

保護者数(利用児童数) 19名 (22名うち兄弟児3組)

回収数 15枚/19枚

	チェック項目	はい				どちらともいえない				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	2	0	0					活動的な子どもたちにとっては狭く感じてしまうことがあるかもしれません。2階建てであることの利点を活かし、部屋を有効活用できるように努めたいと思います。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15	0	0	0					法令基準より加配の職員体制で対応できています。子どもの更なる安心のために努力してまいります。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	6	0	0					玄関の段差や2階への階段など物理的のバリアとなっているため、身体障害の方は利用しづらい。借家であるため改修は難しいと思われるが、必要場合は検討していきたい。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	0	1					建物は古いが、掃除など環境整備を丁寧に行い、今後も子どもたちが安全に安心して過ごすことができるように努めます。	
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1	0	0					子どもの見せる姿の現象面だけにとらわれず行動背景を探り、隠れている子どものねがいをきちんと拾っていくこと。そのための学びを深めていきます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	0	0	3					子どもひとりひとりが思いやねがいをを持った存在であることを念頭に置き、子どもたちの更なる活動要求や意欲も含めた「ねがい」を引き出しつづけるよう支援を模索し続けます。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	13	0	0	2					子どもの自身の思いや願いを十分に引き出しきれていないので、日常的にコミュニケーションをとりつつ、も対話を通してつかんでいけるよう努力していきます。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	0	0	3					子どもやご家族の思い、ねがいを丁寧に関わりながら、支援の内容を設定しています。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	0	0	2					今後も子どもの姿をきちんととらえ、変化を見落とさず、よりよい計画の作成に努めます。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	0	0	0					子ども自身の要求をきちんと受け止めながら、満足しつつ課題となることにも向き合っていくことができるように設定しています。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	7	2	0	6					主に隣接する公園で活動しているので、地域の子どもとの接点や交流は日常的に行われている。	
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	0	0	0					新規利用はもちろんのこと、内容に変更が生じた際にも説明を行っています。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	0	0	0						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	2	0	6					研修など学習の場等は設定できていないが、必要に応じて情報提供していきます。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15	0	0	0				お迎え時などに特記事項等のご連絡いただいています。	お迎えの際などに普段の様子や何気ない日常の様子をやりとりし、共通理解しています。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	4	0	0					普段は話づらいことも面談でじっくりと話すことができ、と考えております。気になることなど専門機関の情報提供も行っています。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	0	0	0					子ども職員も家族と一緒に考えながら、子どもが「よりよい自分と出会い」、「まんざらでもない自分」を感じられるように今後も支援していきます。	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	3	6	3	3					コロナ禍以降、定期的な開催も出来ず、会は停止していますが、つながりを作っていくためにも交流の場などから少しずつ開催できればと考えます。	
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	1	0	3					相談や申し入れがあった際は迅速に対応できるようにしていますが、周知が不十分であるかもしれません。いつでも相談はできることを丁寧にお伝えしていきたいと思っています。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	0	0	0	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	0	0	1	紙面の通信を毎月発行し、写真もふんだんに活用しながら表情豊かな子どもの活動時の様子や、子どもが苦手なことに向き合う姿や、自分を振り返る出来事などのエピソードも載せ、支援の様子が伝わるよう意識している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	1	個人情報取り扱いの詳細について同意を得たものをきちんと確認しながら取り扱っている。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	3	0	6	マニュアルに沿って適宜研修を行っている。家族との共有も丁寧に行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	3	0	6	防災、訓練の意識は平日頃から高めつつ、具体的な修正点をしっかり洗い出し、次の訓練に活かすよう努めます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	0	0	4	職員間での把握に留まりがちなため、家族とも共有、周知できるよう努めています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	0	0	3	ケガや、事故については速やかに連絡を行うよう心がけています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15	0	0	0	子どもが主人公であるように、周囲のおとな（職員）が適切に関わりを持ち、安心できる環境を提供していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	0	0	0	子ども同士のつながりを深め、その中でまんざらでない自分を感じることができるよう支援していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	0	0	0	大変感謝しております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障害児学童保育所あみ		公表日		2025年2月28日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		スペースがあるので、活動によって子ども自身が机上利用、床上利用などを選択できる。テーブルなどを移動することで導線を広げることでもできる。	活動的な子どもたちも多く、体を動かす活動が多くなると室内だけでは手狭感があるため、隣接する公園を活用している。	
2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		活動ベースが違ってても安心して過ごせるよう、1対1の対応ができるように職員配置を考えている。			
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物が古く階段もあるため安全に配慮し、手すりの設置をしている。物品等は片付けやすいように配置したり、引き出しに写真を貼るなどしている。	建物が古く上2階建てのため、身体障害の方には利用がしづらい環境となってしまっている。借家のため完全なバリアフリー化は難しいが、玄関などは工夫していきたい。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			部屋は分かれている音が響きやすいため、音が気になる子どもにとっては、心地よく過ごすことが難しいと思われるが、今のところそのような状況は発生していない。		
5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		トラブルや感情の高ぶりなど、子どもの状態に応じて過ごす場所の提供はできるので、子ども自身も選ぶことができる。安心して過ごすことができるよう努めている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		全職員参加の会議や日々の振り返りなど必要に応じて共有し、確認できている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表だけでなく、日ごろから対話やSNSなどのやり取りも含め、丁寧なコミュニケーションを図っており、率直な意見を聞くことができている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		気付いた時に意見を出してもらえることが多く、すぐに検討し改善することができている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在は第三者の外部評価は行うことができていない。実践支援については市の発達相談員に研修に入ってもらい、実践支援の向上につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		さまざまな研修の機会も多く、その都度情報提供し、呼びかけている。法人研修、外部研修、内部研修等への参加。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		さまざまな状態像にある子どもたちの発達要求のねがいがさらに育まれるように、支援プログラムを検討し作成している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		適宜アセスメントを行い、状態をしっかりと把握しながら計画作成を行っている。	言葉にならない子どもの願や要求を十分には引き出しきれていないところもあるため、子どもとの面談の機会を大切にしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ひとりひとりの状態・課題・変化については日々語り合いスタッフ会議の中でも共有し、ケース検討を重ねることができている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ケース検討だけでなく、必要に応じ共有の機会を設けている。	充分には行き届いていない部分はあるが、支援の方向性の確認と深めていくことに努めていく。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		検査の資料等提供されたフォーマルアセスメントと日々の記録とをしっかりと照らし合わせて子どもの状態像を把握、分析している。	自分たちでは検査等ができないため、受診した子どもに限り、資料の提供をお願いすることで共有、把握ができていますので今後もそのように努めていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインに沿いながらも、活動の様子が具体的に示されることで、子どもの状態がより理解しやすくと考えている。そこから浮かび上がる課題等を明確にし、支援につなげている。	「〇をする」というような具体的な明記とはなっていないが、分かりにくくならずしっかりイメージできる内容となるように努めている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の活動はリーダーが立案するが、職員が子どもたちの意見も聞きながら活動内容の検討を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		運動量が多く活発な子どもも多いため、日々は思いきり体を動かす活動が主となるが、子どもの意見も取り入れながら、いろいろな活動となるよう工夫している。	長期休みは子どもたちの意見を存分に活かせるように努めていく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		何かに特化した個別活動というよりは集団活動の中で課題を意識し、向き合えるように支援している。	こどもの状態によっては個別活動の必要性があるかと思われるため、しっかり見極めながら判断していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前日の振り返りの共有や、当日の支援、気をつけるべきポイントなどきちんと確認しながら支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日の活動については必ず振り返りを行い、気になった点やこどものステキな姿などもしっかり共有を行っている。	長期休みになると、時間に追われてしまい共有ができにくくなることもあるため、意識しながら行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動の内容(出来事)だけでなく、こどもの状態、職員の声かけ等関わりの詳細も記録できるよう努めている。	記録の記入に追われてしまうと、出来事の記載になりがちなため、こどもの様子がしっかりと浮かび上がる記録となるようにしていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		必要に応じ、相談支援事業所、学校、併用事業所とも連携し、計画作成を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		こどもの状態に応じて無理のない支援となるように検討しながら行っている。	全職員が意識できるように定期的にガイドラインについても確認を行っていくよう努めたい。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		毎日の活動についてこども自身が選択できるように取り組んでいる。意見の表明は保障しながら、すべての意見を「受け入れる」だけではなく、難しい場合は折り合いがつかうよう対話を心がけている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者やそれに準ずる者が参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者からの情報をもとにし、必要に応じて情報共有や連絡等を行うことができる。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		了承を得た保護者からは移行支援シートを提供いただき、共有し支援に活かしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		保護者や相談支援事業所からの依頼があれば提供している(保護者によっては望まれない方もいたため)	事業所にきちんとしたこどもの状態像を共有してもらうことで、その後の支援のヒントとなる可能性もあるため、保護者には情報提供の必要性、有用性を丁寧に伝えていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			センター通園していたこどもが放デイ利用となる場合には連携を図ることができるが、それ以外ではなかなかその機会となっていないため、助言や研修を受けることができるように努めたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		隣接する公園での活動が多く、その際に地域のこどもたちと交流する機会が日常的にある。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		子ども部会の障害児支援施設グループに属し、定期的な会や研修参加を行っている。事業所同士のつながりの場としても活用している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎やお迎えの際にこどもの様子をきちんと伝え、必要に応じて電話連絡も行っている。家庭の様子も聞くことができる。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		日々の様子からこどもの特性など、より気づくことができるように丁寧に伝えている。	研修など保護者家族にとって必要な場合は積極的に情報提供するが、情報がないことも多いため、情報収集も行いながら、必要に応じて伝えるようにしていきたい。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明を行っているか。	○		新規契約や、内容に変更が生じた際には丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		日頃の様子をしっかり捉え、情報提供を行い、またこどもや家族のねがいを聞き取りながら、支援を行っている。	こども自身の言葉を丁寧に聞き取る場面をもっと増やしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		事務的な対応とならないよう、日頃の様子を含め丁寧に伝えるよう心掛けている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎やお迎えの際の会話を大事にしながら、話しやすい雰囲気作りを心がけ、相談できる環境があることをまずは伝えている。必要に応じて関係機関と連携したり、専門機関につなぐ等、保護者の安心につながるような支援に努めている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		コロナ禍で活動が中止となったが、役員経験のある保護者の方からご意見を聴きつつ、保護者同士がつながる機会を保障するためにも、再開に向けて一緒に検討し、サポートしていけるよう努めていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	対応に不安や不満が生じた際も率直に意見を出して頂けるような関係作りをさらに心がける。	子どもからの苦情についても真摯に受け止め、対応を協議し対話を通して改善策を提案していけるよう努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○	紙面の通信を毎月発行し、写真もふんだんに活用しながら表情豊かな子どもの活動時の様子や、子どもが苦手なことに向き合う姿や、自分を振り返る出来事などのエピソードも載せ、支援の様子が伝わるよう意識している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	個人情報取り扱いの詳細について同意を得たものをきちんと確認しながら取り扱っている。	状況によっては情報の取り扱い注意となるケースもあるため、職員間で常に意識するよう今後も取組んでいく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		事業所単独ではなかなか行事への招待までできていないため、どのような形でなら可能か模索していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	マニュアルに沿って適宜研修を行っている。	家族との共有も丁寧に行っていきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	業務継続計画を策定し、研修等を踏まえ今後もきちんと内容についても確認を行い、適宜見直しなどができるようにしていく。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○	保護者や相談支援事業所からの情報提供をもらっている。服薬など変更があった際も教えてもらい、確認・把握している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	現在対象児はいない。 必要に応じて、医師の指示書に基づいて対応していく。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	普段から頻りに利用する場所やあまり利用しない場所などあるため、職員が共通認識を持てるよう常に確認し、ヒヤリハットの要素を排除できるように心がけていく。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		職員間での把握に留まりがちのため、家族とも共有、周知できるよう努めていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	発生した事案については即時共有と対策を講じている。	個別の支援記録に記載しているが、ヒヤリハットに特化した記録に残していないため、今後はしっかりと記録していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	研修でその都度意識できるよう振り返りもやっている。	虐待だけでなく人権についても意識をしっかりと高めていく必要がある。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	現在対象児はいない。 子どもや保護者と確認を丁寧に行いながら、実施するかの判断を行っている。		